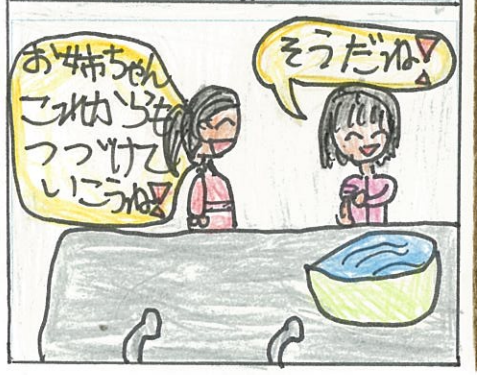
①渡り鳥を助けよう
②海岸クリーン作戦
③命の水を大切に
④ウミガメの保ご
⑤つくろう夢の池

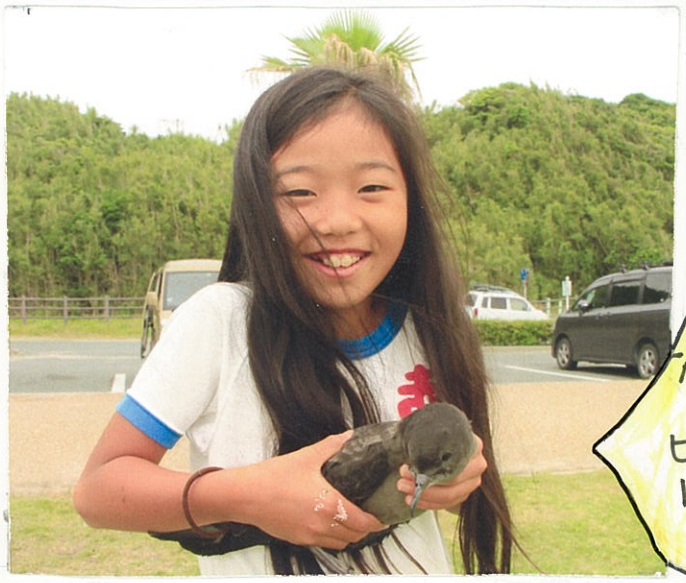
青い空

発　行
田原市立赤羽根小学校
4年　小川まなは
平成29年1月5日
第１号

エコファミリー ～命の水を大切に～



元気になって『クッピー』



お父さんが助けた渡り鳥のことから、生き物が生きていくためにわたしたちができることについて、家族で話し合いました。

みんなで渡り鳥を助けよう

5月の中ごろ、赤羽根海岸でけがをしている渡り鳥を、お父さんがだいて帰ってきました。わたしたちは、渡り鳥をクッピーと名前をつけて、エサを食べさせたり、ダンボール箱の中でねかせたり家族みんなで世話をしました。でも、3日後に死んでしまいました。

クッピーは、げりをしていたから、体の中にウィルスが入ったのかもしれません。海にうかんだごみをクラゲと間ちがえて食べたのかもしれません。

「海の生き物を守るために、ごみ拾いを進んでやろう」と家族で話し合いました。

赤羽根海岸クリーン大作戦

砂浜で拾ったごみ

わたしの家族は毎日のように赤羽根海岸に行って、サーフィンをしたり、砂浜で遊んだりしています。

その海岸には、あきかんやプラスチック用器、ペットボトル、ビニールぶくろ、はっぽうスチロールなどのごみが落ちています。中には、わすれ物のくつやビーチサンダル、スコップ、ちがう国から流れてきたごみもあります。それは、みんな人間が作った自然にかえらない物ばかりです。

わたしは、海で遊んだ後「お姉ちゃん、ごみ拾いをやろう」とさそって、両手に持てるだけのごみを拾って帰ることにしました。

おじさんに聞く ウミガメの保ご

総合の学習の時間に赤羽根じゃくの渡辺さんにウミガメのことを聞きました。

「ウミガメはビニールぶくろを食べて死んでしまうことがあるよ。海岸に魚をとるあみがあると親がメがひっかかって死んでしまうこともあるよ」

話を聞いて、ごみ拾いをもっとしようと思いました。

海へ帰る親がメの足あと

つくろう 鯉たちの夢の池

竜ケ原の池に生き物をふやそうとお父さんと相談しました。

初めに穴をほって、雨水をためました。そこへ、金魚を入れました。しばらくして見に行くとザリガニの赤ちゃんがいました。でも金魚はいなくなっていました。

生き物を助けるために、いろいろなことを調べてザリガニもほかの魚たちも住めるようにして、竜ケ原の地を豊かにしたいです。

あとがき

新聞を作って、命を守ることをわたし考えてきました。これからも続けていこうと思います。